

## 成果の説明書

|   |           |
|---|-----------|
| (氏名) 藤本 哲   | (学部) 経済学部 |
| 1 重要事項  |           |
| <p>「枠の設置による手書き数字の標準化：非影響的測定法によるデータ収集」<br/>『高崎経済大学論集』第61巻3・4号</p> <p>組織構造の集約的3次元の一つである、公式化次元は、課業の規則化の程度と規則の遵守度の2つの尺度で測定される。組織成員は、規則に則って行動するため、規則が細かく記述されていれば、多くの組織成員の行動は、細かな水準まで揃うことになる。それに対し、規則が大まかであれば、組織成員の行動にはある程度の自由度や裁量が確保され、組織成員の行動は大まかには揃っていても細かな水準ではばらつきが大きくなる。このことを考えれば、規則の果たす機能とは、組織成員の行動を標準化することである。</p> <p>さすれば、組織成員の行動を標準化する、規則では無い他の仕組みがあるなら、それは組織構造の公式化次元を高めることに寄与していると言える。そのような仕組みの一つとして物的な仕掛けがある。中でも手書き数字を読みやすく丁寧に書かせるための仕掛けとして、古くからある記入枠の効果を検証した。データ収集方法として、非影響的測定法を採用し、被験者に研究対象であることを意識させることの無いデータ収集とし、自然な状態でのデータを収集し、分析に用いた。</p> <p>地域科学研究所 製造業調査プロジェクト 第2期海外展開編への参加</p> <p>このプロジェクトは、高崎市内企業もしくは高崎市内に主要工場を持つ企業の海外工場を取材し、中小製造業の海外展開について調べ、報告書を書く物であるが、本プロジェクトにおいて、1企業を担当し、その中国における工場2カ所を訪問した。</p> <p>調査結果の概要をぐんま経済研究会（一般社団法人群馬経済研究所および本学地域科学研究所）にて、それぞれの訪問先について2回にわたり発表した。</p> |           |
| 2 その他の事項  |           |
| 3 次年度以降の計画・抱負   |           |
| 地域科学研究所 製造業調査プロジェクト 第2期海外展開編の報告書刊行への準備を進める。   |           |